

平成 21 年 1 月
金融広報中央委員会

高等学校学習指導要領案についてのパブリックコメント

近年、国民の暮らしを取り巻く環境が大きく変化する中で、金融知識の不足に起因した金融トラブルが若年層に広がりながら増加している。このため、国民一人ひとりが金融に関する基礎知識を学び、金融に関して主体的に判断する能力を身に付ける必要性が高まっている。また、金融教育は、学校教育が掲げる「生きる力」を育むものもある。以上を踏まえると、公民、家庭の学習指導要領に、以下のようななかたちで、お金や金融に関する記述を書き込んで頂きたい。

例えば、具体的には以下のとおり。

現代社会では、内容（2）工「現代の経済社会と経済活動の在り方」で、「現代の経済社会の変容などに触れながら・・・金融について理解を深めさせる」とこととなっているが、その際には、経済のグローバル化の進展も踏まえて、家計、企業、金融機関、政府、海外といった経済主体間での、モノやサービスと資金の流れの全体像と最近の変化などを具体的に理解させて頂きたい。

また、こうした各経済主体の間の資金の流れをつなぐ金融市場(株式、債券、為替など)の働きと、各市場で成立する金利や為替相場の意味を理解させて頂きたい。

また、複利の概念も取り上げて多重債務問題など金融に関する消費者の問題にも触れて頂きたい。

なお、金融政策については、かつてのいわゆる公定歩合操作から現在は公開市場操作（オペレーション）が主体となっていることを明確に示して頂きたい。

政治・経済でも、内容（2）ア「現代経済の仕組みと特質」で「金融の仕組みと働き」が取り上げられているので、上記 の内容を同様に理解させて頂きたい。

なお、内容の取扱いでは、「マクロ経済の観点を中心に扱うこと」となっているが、金融活動は目に見えにくいことから生徒の関心を高めるため、「マクロ経済が個人の経済生活にも大きく影響を与えている」との観点とか、「個人の金融との関わり方(パーソナル・ファイナンスの視点)からマクロ経済を見る」といった観点にも触れて頂きたい。

家庭基礎では、内容（2）工「消費生活と生涯を見通した経済の計画」、力「生涯の生活設計」で、新たに生涯を見通した自己の生活との観点が取り込まれ、改善が図られている。

また、内容の取扱いでは、「契約、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを取り上げて

具体的に扱うこと」とされているが、その際には、金融トラブルに巻き込まれないために注意すべき点や、万が一被害にあった場合の解決方法にも触れて頂きたい。

このほか、お金や金融に関する教育を普及する観点から、職業選択や自動車購入、結婚、住宅取得、子女の教育、親の介護、自身の老後など、種々のライフイベントに必要な資金計画などを取り上げて生徒に自ら考えさせるようにして頂きたい。なお、こうした生涯を見通したライフイベントについては、個人の生き方・価値観により多様であることにも触れて頂きたい。

また、こうした生活設計を考える際には、貯蓄や資産運用、ローン、保険といった各種の金融商品についても基本的な考え方を理解させるとともに、複利効果や各種リスクの存在、リスク分散などの基礎概念にも触れて頂きたい。

家庭総合の内容（3）生活における経済の計画と消費、（5）生涯の生活設計、および生活デザインの内容（2）ア「消費生活と生涯を見通した経済の計画」、ウ「生涯の生活設計」においても、上記 の内容を同様に理解させて頂きたい。

以上、公民、家庭に焦点を絞ってコメントしたが、社会の中で生活していくうえでお金との関係は一生を通じて切っても切れないだけに、金融教育の視点はその他の教科や総合的な学習の時間、特別活動とも深く関連している。また、高等学校における道徳教育は、各教科等を通じて行われるが、健全な金銭感覚を身に付けることも重要な観点である。こうした点も書き込んで頂きたい。

以 上